

平成31年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

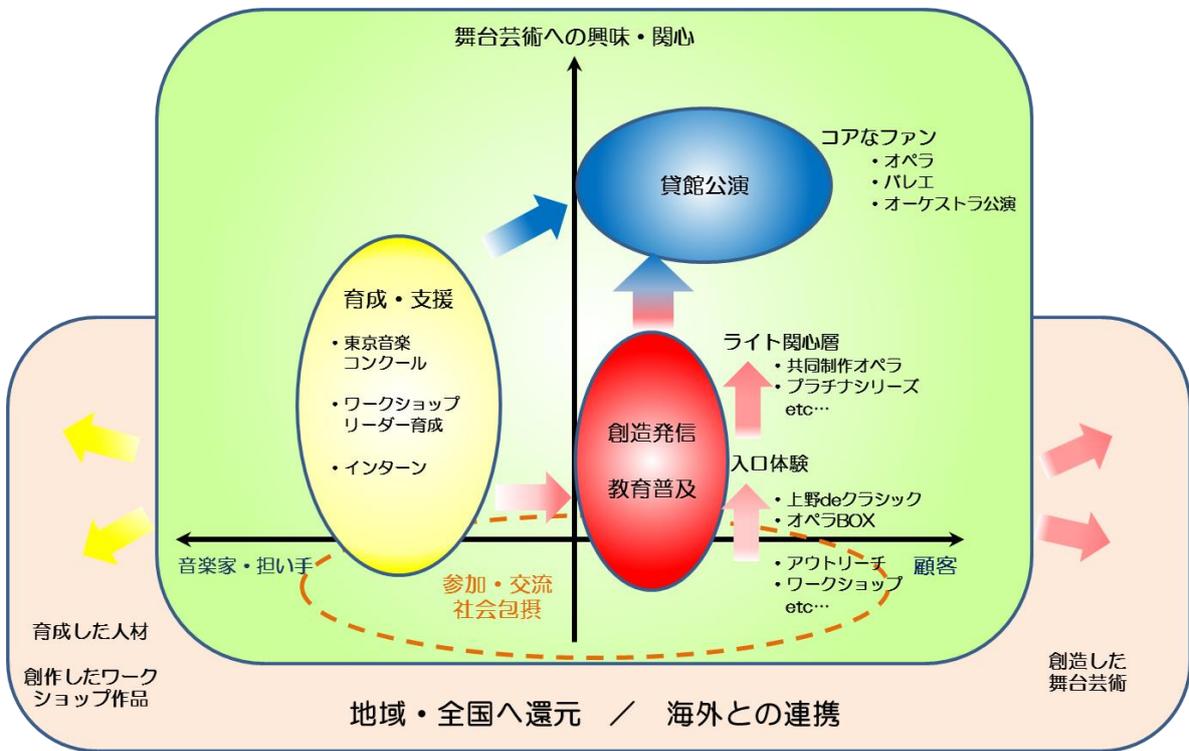
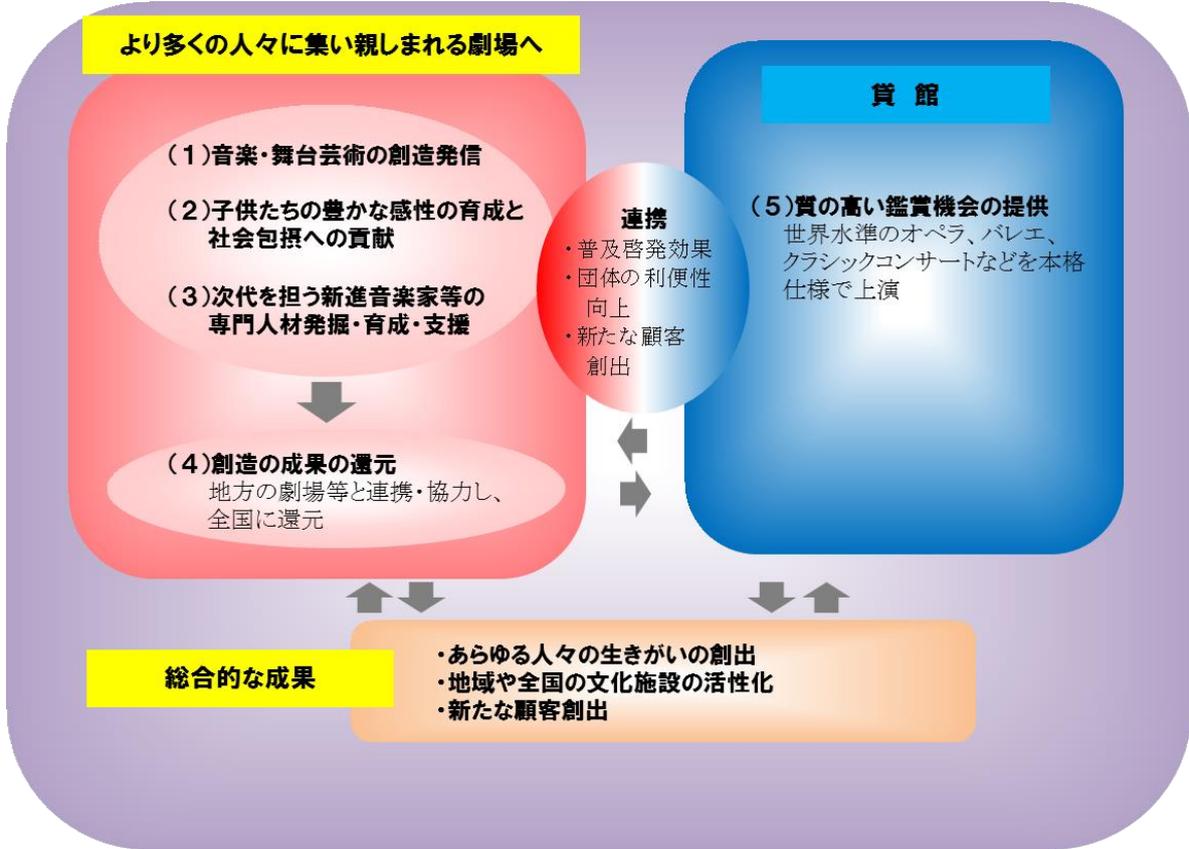
自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人東京都歴史文化財団	
施 設 名	東京文化会館	
助 成 対 象 活 動 名	より多くの人々に集い親しまれる劇場へ	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	57,702	(千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）



(2) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	舞台芸術創造事業 「400歳のカストラート」	2020年2月15日	企画原案・選曲・カウンターテナー：藤木大地 脚本・演出・美術：平常（たいらじょう） 音楽監督・作曲・編曲・ピアノ：加藤昌則 朗読：大和田 獏、大和田美帆 演奏／ヴァイオリン：成田達輝、坪井夏美 ヴィオラ：田原綾子 チェロ：笹沼 樹 他	目標値	470
		東京文化会館小ホール		実績値	564
2	オペラBOX 「泣いた赤おに」	2019年9月22日、23日	作曲・台本・指揮：松井和彦 演出：久恒秀典 赤おに(Ten)：宮里直樹 青おに(Br)：岡 昭宏 木こり(Br)：龍 進一郎 その娘(Sop)：盛田麻央 百姓(Ten)：黄木透 その女房(Mez)：八木寿子 ナレーター(Sop)：高橋薫子 ピアノ：服部容子 ヴァイオリン：岸本萌乃加 クラリネット：草野裕輝 打楽器：甘田一成、沓名大地、彌永和沙 他	目標値	1,000
		東京文化会館小ホール		実績値	1,059
3	創遊・楽落らいぶ —音楽家と落語家のコラボレーション—	2019年6月20日 ～2020年3月6日 ※新型コロナウイルスの影響のため1回中止	演目：蒟蒻問答、化け物使い、お見立て(イラスト&英語字幕付)、松山鏡落語：瀧川鯉昇、三遊亭遊吉、桂米福、桂文治 和妻：きょうこ 演奏／作曲・ピアノ：コーセイ チェロ：たのうち恵美 スチールギター：小林“LION” 潔 ヴォーカル・ギター：山本雅也 他 年5回	目標値	2,250
		東京文化会館小ホール		実績値	2,027
4	響の森コンサート	①2019年8月1日 ②2020年1月3日	①シベリウス：交響詩「フィンランディア」、ロドリゴ：アランフェス協奏曲 他 指揮：小林研一郎 ギター：村治佳織 管弦楽：東京都交響楽団 ②ガーシュウィン：ラブソディ・イン・ブルー、外山雄三：管弦楽のためのラブソディ 他 指揮：外山雄三 ピアノ：横山幸雄 管弦楽：東京都交響楽団	目標値	3,600
		東京文化会館大ホール		実績値	4,448
5	上野 de クラシック	2019年4月17日 ～2020年3月10日 ※新型コロナウイルスの影響のため1回中止	東京音楽コンクール入賞者の活動支援コンサート。 ヴァイオリン：関 朋岳 トロンボーン：高瀬新太郎 ヴァイオリン：高木凜々子 トランペット：三村 梨紗 他 年16回	目標値	6,000
		東京文化会館小ホール		実績値	7,729
6	Enjoy Concerts! 小曽根真&スコティッシュ・ナショナル・ジャズ・オーケストラ “Jazz meets Classic”	①2019年5月18日 ②2019年5月19日	プロコフィエフ：ピーターと狼(トミー・スミス編曲/ナレーション付き)、サン＝サーンス：動物の謝肉祭(小曽根真編曲) ピアノ：小曽根 真 ナレーション：橋爪功 スコティッシュ・ナショナル・ジャズ・オーケストラ	目標値	3,130
		①東京文化会館大ホール ②オリンパスホール八王子		実績値	3,409
7	Enjoy Concerts! プラチナ・シリーズ	2019年9月26日 ～2020年1月24日	第1回「パスカル・ロジェ」 第2回「アンサンブル・ウィーン＝ベルリン」 第3回「秋吉敏子」 第4回「鈴木大介 ゲスト：渡辺香津美」 第5回「ベルリン・フィルハーモニー・ピアノ四重奏団」	目標値	2,400
		東京文化会館小ホール		実績値	3,043

8	Enjoy Concerts! シャイニング・シリーズ	①2019年10月30日 ②2020年2月22日	①Vol.5 ボローニャ歌劇場弦楽五重奏～東京音楽コンクール入賞者とともに～ ②Vol.6 萩原麻未 ピアノソロ・リサイタル	目標値	700
		東京文化会館小ホール		実績値	1,086
9	第17回東京音楽コンクール及び東京音楽コンクールの充実	募集 2019年4月15日～4月24日 予選～本選 2019年6月29日～8月26日	開催部門：ピアノ部門、木管部門、声楽部門 総合審査委員長：小林研一郎 顧問：ジョージ・レンドヴァイ 他 第1次予選：非公開審査 第2次予選・本選：公開審査	目標値	1,950
		東京文化会館小ホール 東京文化会館大ホール		実績値	4,220
10	第17回東京音楽コンクール優勝者&最高位入賞者コンサート	2020年1月13日	ピアノ：秋山紗穂 フルート：瀧本実里 テノール：工藤和真 指揮：三ツ橋敬子 管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団 司会：朝岡 聡	目標値	1,600
		東京文化会館大ホール		実績値	2,131
11	夏休み子ども音楽会 2019 《上野の森文化探検》	2019年8月4日	ヴェルディ：オペラ『アイダ』より凱旋行進曲、プッチーニ：オペラ『ジャンニ・スキッキ』より「私のお父さん」、プッチーニ：オペラ『トゥーランドット』より「誰も寝てはならぬ」 他 指揮とお話：山下一史 ソプラノ：種谷典子 テノール：宮里直樹 管弦楽：東京都交響楽団	目標値	1,800
		東京文化会館大ホール		実績値	2,159
12	Enjoy Concerts! 3歳からの楽しいクラシック	2019年10月26日	アンダーソン：トランペット吹きの子守唄 楽器紹介：ピッコロトランペット／クラーク：トランペット・チューン ワークショップ：切ったペットボトルでためしてみよう！／アメリカ民謡：幸せなら手をたたこう 他 ピアノ：白石光隆 トランペット：多田将太郎	目標値	450
		東京文化会館小ホール		実績値	513
13	Enjoy Concerts! まちなかコンサート	2019年9月20日 ～11月2日	東京音楽コンクール入賞者を起用した美術館や博物館等との連携コンサート。 ①メゾソプラノ：高橋華子 ②オーボエ：副田真之介 ③ヴィオラ：有富萌々子 他	目標値	4,800
		① 国立西洋美術館 ② 東京国立博物館 ③ 江戸東京たてもの園 他		実績値	6,481
14	Workshop Workshop! ～国際連携企画～	2019年4月21日 ～2020年3月25日 ※新型コロナウイルスの影響のため11回中止	①カーザ・ダ・ムジカ来日講師陣によるワークショップ・リーダー育成プログラム 延べ177回 ②カーザ・ダ・ムジカと東京文化会館オリジナル・ワークショップを集中的に実施する、夏(7月)と冬(12月)のワークショップ・フェスタ 35回 ③①で育成された将来性豊かな人材のチームによる、年間を通じての館の内外でのワークショップ実施 45回 ④他施設との連携企画14回 ⑤ワークショップ・リーダーの研鑽 延べ366回 ⑥各種機関との連携プロジェクト 3回 出演：東京文化会館 ワークショップ・リーダー 他	目標値	2,600
		①②③⑤東京文化会館リハール室 ②北とぴあ、調布市グリーンホール ④サンポートホール高松 ⑥特別養護老人ホームあさくさ 他		実績値	5,948

15	Workshop Workshop! 2020 on stage & legacy	2019年6月13日 ～2020年3月10日 ※新型コロナウイルスの影響のため検証公開報告会中止	①各種機関との連携プロジェクトを核とした長期プロジェクトの実施 協力：ブリティッシュ・カウンシル、共催：台東区教育委員会他19回 ②特別支援学校におけるオーケストラ公演等の開催 共催：東京オーケストラ事業協同組合4校5回 ③特別支援学校や高齢者施設等におけるワークショップの開催 出演：東京文化会館 ワークショップ・リーダー8校16回、2施設6回 ④効果の測定と検証 研究協力：同志社女子大学、九州大学3回	目標値	1,400
		①台東区生涯学習センター ②都立八王子特別支援学校 ③都立立川ろう学校 ④東京芸術劇場リハーサル室 他		実績値	2,570
16	Workshop Workshop! 東京ネットワーク計画	2020年1月27日 ～3月7日 ※新型コロナウイルスの影響のため5回中止	①都内文化施設と連携したアウトリーチの実施 出演/オーボエ：篠原拓也、ファゴット：柿沼麻美 他 3会場4公演中止	目標値	1,000
		①あきる野ルピア 他 ②サントリーホールリハーサル室 ③東京文化会館小ホール	②文化施設の連携：人材の育成 協力：サントリーホール、トリトン・アーツ・ネットワーク 2回 ③成果発表 中止	実績値	104
17	Music Education Program Talk & Lesson	①2019年5月15日 ②2019年10月28日、29日	①小曽根真ワークショップ「自分で見つける音楽 Vol.7」 ピアノ：小曽根 真 ②ポローニヤ歌劇場弦楽五重奏メンバーによる オケストラ・スタディ マスタークラス 講師/ヴァイオリン：エマヌエーレ・ベンフェナーティ 他	目標値	550
		①東京文化会館小ホール ②東京文化会館リハーサル室 他		実績値	616
18	Music Education Program オペラをつくろう！	2019年7月23日 ～9月23日	オペラBOX「泣いた赤おに」連携事業。 ①小・中学生を対象にしたオペラの児童・生徒合唱・合奏・演技ワークショップ 参加後、オペラBOX「泣いた赤おに」に出演。 延べ22回 ②美術系参加ワークショップ 延べ5回 ③舞台制作ワークショップ 延べ35回 講師/指揮：松井和彦、演出：久恒秀典、歌唱指導：田中美佳、合奏指導：諸遊耕史 他	目標値	800
		①③東京文化会館リハーサル室 他 ②③狛江エコルマホール 他		実績値	1,069
19	Music Education Program アウトリーチワークショップ	2019年5月31日 ～2020年3月7日 ※新型コロナウイルスの影響のためクリニック2回中止	①クリニック（演奏指導）3校13回うち2回中止 講師：東京音楽コンクール入賞者 他 ②ワークショップ 37校81回 出演：東京文化会館 ワークショップ・リーダー	目標値	1,900
		①八王子市立清水小学校 他 ②瑞穂町立瑞穂第三小学校 他		実績値	2,767
20	バリアフリー対応	通年	①追加誘導員の配置 ②手話通訳者の配置	目標値	—
		東京文化会館小ホール 東京文化会館大ホール		実績値	—
21	多言語対応	通年	①チラシ、プログラム原稿の英語への翻訳 ②チラシ、プログラム英語版のデザイン・印刷 ③英語字幕の作成・機材借用 オペラBOX、創遊・楽落らいぶ	目標値	—
		東京文化会館小ホール 東京文化会館大ホール		実績値	—

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。

当館は、多くの文化施設が集結する上野の駅前という好立地に加え、世界遺産に登録された建築家コルビュジェが設計した西洋美術館を正面に、その弟子である建築家・前川國男が設計した当館の建築的な魅力と、来年60周年を迎える古くからオペラやバレエを本格仕様で上演する舞台機構を持つ施設として数々の著名な欧米の劇場の引越公演が上演され、歴史的にも重要な施設として平成31年度の日稼働率は大ホール96.1%、小ホール100%と非常に高い。

その施設が求められる自主事業は、東京都の文化ビジョンに記載された都立文化施設の運営方針に則った基本方針に沿って、企画・運営されており、その事業企画はPDCAのサイクルを取り入れ、より質の高い事業展開に取り組んでいる。

事業の運営に当たっては、外部の専門家の意見も取り入れるため、定期的に外部評価委員会・運営委員会も実施。予算・決算時に評議委員会・理事会を経て承認される。

今年度は、ミッションに則り、「創造発信」「人材育成」「教育普及」の3本の柱を連動させて自主事業を構成し、実施した。令和2年初旬から続く新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、2月末以降に予定していた事業の中止・延期を余儀なくされたが、指定管理者目標に則り設定している目標の1つである入場・参加者数は、多様な事業を展開した結果、自主事業全体で98,962人と目標を上回り、平成31年度の助成対象19事業の入場・参加者数平均達成率は、創造発信事業119.9%、教育普及事業131.4%、人材育成事業174.8%と目標を上った。

上記のような実績の結果として、平成31年度の外部評価委員会及び平成30年度(平成31年度は今秋に決定)の指定管理者評価も高評価を得ることが出来た。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

「創造発信」においては新進音楽家を多数起用した当館オリジナル作品の世界初演を実現し、他の文化施設等から次年度以降の開催希望の問合せをいただいております。助成をいただいた事業が地方でも継続して上演されることに文化的意義が認められる。

「教育普及」では、手話や英語を使用したワークショップの開発により対象の幅を拡大。新たに台東区教育委員会と共催した地域向け音楽ワークショップ実践講座の開講、「社会包摂につながるアート活動のためのガイドブック」を刊行し、HPでも公開。アクティブ・シニアの効果の検証と共に、他の文化施設や福祉機関等の職員他、誰にでも手に取れるよう、情報入手手段を拡げることで社会的な課題解決に向けた一助とした。今後は企業と共に新たな技術と連動させた鑑賞・参加の補助機能開発等にも繋げていきたい。

事業全体と連関する「人材育成」を通じて他の文化施設との関係も深化し、新進音楽家が学ぶマスタークラスや講座を共同で実施した。

新型コロナウイルス感染症の影響で年度末に予定していた「東京ネットワーク計画」の連携事業は中止を余儀なくされたが、アウトリーチや教育プログラムに関する文化施設の関心は高いが人的・財政的負担等により単独での開催が困難な現状を打破すべく、構築したネットワークを活用して育成した人材が館外でも活躍することで、様々な地域の活性化に貢献できる。延期された東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、継続して各機関・団体と相互に連携・協力し芸術文化の発信に努めていく。

(2) 有効性

自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

「創造発信事業」ではアウトカムに対し以下の目標を設定。各実績は以下の通りとなった。

- (1) 国際・国内連携 創造した作品を上演する他の文化施設や団体数【3】指標:5年間で10
- (2) コラボレーションと新たなクラシックの提案 実施数【7】指標:年間平均7
- (3) 若手の活用 ①創造系事業への東京音楽コンクール入賞者起作品【2作品】指標:5年間で8作品
②創造系事業への東京音楽コンクール入賞者起用数【109名】指標:年間平均85名
- (4) 鑑賞機会の創出 ①児童向けコンサート【12回】指標:年間平均10回
②コアなファン向けコンサート【9回】指標:年間平均9回
③広く一般向けコンサート【54回】指標:年間平均55回

実績はほぼ指標を達成し、入場者も目標を達成したことから、当館ならではの作品を、特に若手を起用しながら様々な対象に向けて制作したアウトカムが発現したと考えられる。

「教育普及事業」ではアウトカムに対し以下の目標を設定。各実績は以下の通りとなった。

- (1・2) 国際連携 施設(団体)との国際的連携数【3】指標:年間平均2
- (3) 社会的課題への対応 ①実施する延べワークショップ数【136回】指標:年間100回
②開発するワークショップ数【13件】指標:年間13件
- (4) 若手の活用 東京文化会館ワークショップ・リーダーの起用数【406名】指標:年間平均延べ400名
- (5) 文化施設等多様な連携 文化施設や実演家団体との連携数【36】指標:年間平均35

全ての指標を達成し、連動した事業の入場者・参加者数も目標を達成した。

高い指標を実績に基づき設定したが、それを上回る実績を達成できたのは、取り組む事業に対する多様なニーズの高さと考える。

「人材育成事業」ではアウトカムに対し以下の目標を設定。各実績は以下の通りとなった。

- (1) 新進音楽家 海外に於ける演奏機会及び招聘アーティストとの共演機会の創出数【2事業】指標:5年間で6事業
- (2) 舞台芸術を支える人材 多様なトレーニング実施数【11種類】指標:年間平均5種類
- (3) 若手の活用 各事業への東京音楽コンクール入賞者起用者数【121名】指標:年間平均80名

全ての指標を達成し、新進音楽家の活動の範囲も拡大の傾向にある。特に、トレーニングには専門家による講座や海外のアーティストによるマスタークラス等多岐にわたり、東京音楽コンクール入賞者や東京文化会館ワークショップ・リーダーのみならず、民間の文化施設との連携による若手の育成や、プロアーティスト、他の文化施設関係者等の学びの機会としても提供することが出来た。

目標の達成に向けては、専門人員の採用による体制や専門性の強化が図れたことによるオリジナル性の高い事業を実現したこと、また、作品毎に、短期・中期で広報・販売計画を立てる等、各担当セクションが連動して運営した。夏季には台風に見舞われ、年度末より新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う公演の中止や延期のため、指標を達成することが出来ない事業もあったが、全体としてはアウトカムの発現は可能であった。

自然災害や今後も続くことが予想される感染症について回避は困難であるが、対策を講じながら実現を目指していくことで、音楽芸術による人々の生きがいの創出に繋げていきたい。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

平成 31 年度に展開した事業は、財団の方針により平成 30 年前半に予算を組み立てている。さらにその前年度にはアーティストの選定や創造発信事業の概要、人材育成事業のスケジュール等については決定しており、実施会場は規定に準じて 15 か月前、18 か月前に手配すること、また、教育機関との連携に係る事業については、期間を設定してその期間内で事業を展開している。

短期・中期で展開する事業を適切な準備期間を経て、順調に実施することが出来た。

事業の運営上、計画においては事業期間による支障は生じずに実施できる予定であったが、年度末の事業については新型コロナウイルス感染症拡大防止による中止・延期を余儀なくされ、実現できない公演が生じた。

目標入場者数については、指定管理者により定められているため 4 年間継続した目標値であるが、今年度についても定められた目標を大きく上回って実現することが出来た。

これは、主催事業のファンや、東京音楽コンクールを応援する若手音楽家のファンが、幅広い彼らの活動をサポートできる事業展開として定着している事や、他ジャンルのコラボレーションや新たな取組による新規鑑賞者の開拓によるものと考えられる。

事業費全体においては、効果的な広報等による入場料収入の予算比 27%増、開拓の推進による広告料等 9%増により助成金対象事業全体で約 20%の増収入となった。

また、経費においては予算の約 93%の支出に抑えて運営し、効率的な事業運営を実現した。

徹底した執行管理により、入場料収入増や経費削減状況を把握し、教育普及事業の内容やトレーニングの拡充、創造事業の内容の拡充に充当することで、より質の高い事業展開を実現させることが出来た。

自主事業を執行していく上では、全体の収入や支出のバランスを見ながら必要に応じて事業間の予算の移動を行いながら効率的な運営を目指している。

個別事業については上記の理由により要望時とは乖離が見られる場合であっても、より効果的な助成金の活用を実現したと考えている。

職員の意識向上により語学力が向上したことで、予定していた翻訳費の削減につながったことはスキルアップという視点においても大きな成果であった。

現制度では、年度初めの事業については前年度に支出している広告宣伝費等の経費、年度末の事業については報告書の提出期限が 3 月 25 日必着であるため、3 月中旬以降に履行する事業の経費が対象経費として計上できず、大幅な乖離が発生する仕組みとなっている。5 年継続で採択されており、前年度執行分、年度末執行分も年間の事業計画上、必要な経費であるため、対象経費の考え方を改善していただけると大変有意義である。

招聘アーティストを起用した企画を立てる際、春先の来日も多いため助成金を充てられない場合は見送らざるを得ないことも多々ある。

起用や企画を断念したり、工夫した上で実施計画を立てているが、今後の事業運営にあたっては、事務処理の改善等、可能な範囲で工夫をすることで助成金のより効果的な活用に繋げたい。

(4) 創造性

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

最も特徴的であるのは「人材育成事業」が基盤となり、様々な「創造発信事業」「教育普及事業」と有機的に連動して事業全体を構築している点であるが、その「人材育成事業」では、小林研一郎音楽監督が総合審査員長を務める東京音楽コンクールの国際化や、様々な事業に新進音楽家を起用した企画・運営、更に都内外の文化施設での公演に起用する等、監督自らが入賞者の活躍の機会の創出を推進し、事業展開の活性化を図っている。

オペラ制作を専門とする事業企画課長や創造事業、教育普及、社会包摂を専門とする担当係長、照明プランナーでもある舞台管理担当係長の継続した配置等により、それぞれの専門性を活かした事業内容の拡充や、各事業の企画・制作に携わる職員のスキルアップを図りながらミッションに呼応する独創的な事業を展開し、広報面でも担当係長を配置することでその成果を効果的に発信している。

館内に拠点を持つ東京都交響楽団とは定期的に協働で事業を展開しており、このような身近な実演家団体との連携が作品のクオリティの担保の一役を担っている。

また、日本でも数少ない本格的なオペラ公演の開催が可能な大ホールのみならず、「奇跡の音響」と称される小ホールでは、本来の使用目的であるリサイタルや室内楽に加え、その空間を活かした舞台芸術作品を企画・制作することで、より身近に多様な公演を観客に提供し、館の魅力を幅広く発信している。

「創造発信事業」では、人形劇俳優の鬼才たいらじょうを初めて演出家として迎え脚本・舞台美術を担当、実力派カウンターテナー藤木大地の原案を肉付けした「400歳のカストラート」を世界初演。俳優2名の朗読と東京音楽コンクール入賞者を起用したアンサンブルを作曲家の加藤昌則が自ら編曲・作曲した音楽で牽引し上演。入場者数の達成率は120%と目標を大きく上回り、満足度も96%と圧倒的な高さとなり、観客、出演者やスタッフ等の関係者も満足できた公演となった。他の文化施設からの視察も多く、次年度以降の巡回公演も決定した。

また、オペラBOX「泣いた赤おに」の再演では、照明効果の向上を図るため舞台装置を改良。英語字幕も導入して、日本語字幕と並記して上演した。同キャストによる2回公演という初めての試みだったが、入場者数は105.9%と目標を達成した。初来館者が目標10%に対し30%と大幅に上回ったことは作品やアーティストの魅力はもとより英語字幕の効果もあったと推察される。

「シャイニング・シリーズ」ではボローニャ歌劇場から室内楽を自ら招聘し、東京音楽コンクール入賞者との共演を実現。軽井沢と白河の文化施設で巡回公演を行った他、アーティストによるマスタークラスも開催する等、多岐に亘って事業を展開した。

人材育成や教育普及では、国内外から講師を招聘し、文化施設と連携したトレーニングや講座の開催を拡充。米国カーティス音楽院からコントラバス奏者でもあるジャビアン氏を招聘し、ワークショップやアーティストとしてのキャリアデザインセミナーを開催。新進音楽家が自らのキャリアを主体的に考える貴重な機会となった。

また、ボーンマス交響楽団との連携による社会包摂の実践的なプログラム開発トレーニングや大学等との連携による講座も実施。満足度96%と効果的な開催であったことを裏付けた。

多様な手法を学ぶ機会を活かし、東京文化会館ワークショップ・リーダーにより手話や英語を使ったワークショップも開発して実施。その際には受付にも手話通訳を配置する等、バリアフリー化を推進した。

これらの作品以外にも自らの企画・制作によるものであり、全体で満足度、入場者数達成率も目標を達成した。年度末には公演写真を多用した視覚的な訴求効果のあるアニュアルレポートを作成し配布する他、HPにおいても閲覧可能とすることで広く発信している。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

事業の根幹である「東京音楽コンクール」は、2次審査は2部門で、「優勝者&最高位入賞者コンサート」で満席となるなど注目度の向上が見られる。小林音楽監督就任後に取り組んだ改革により注目度も年々高くなり、審査結果や入賞者を起用した主催事業について「音楽の友」や「ショパン」等の専門誌等に多数取り上げられた。

また、入賞者を起用したオペラ BOX「泣いた赤おに」の再演では、舞台美術に照明効果が映える改善を施した結果、照明の専門誌「JPL」に大きく取り上げられた他、教育普及事業については「東京人」や「resemom」（ネット配信）等で紹介されるなど、幅広く周知する機会となった。

当館も所属するヨーロッパを拠点とする教育普及のネットワーク「RESE0」においては、所属する団体の教育普及作品をエントリーできる賞「RESE0 Prize for Best Opera」の審査員として当館の職員が参加。国際的な存在感をアピールした。

「400歳のカストラート」では企画段階から他の文化施設との連携を目指していたが、稽古場や公演への視察希望が相次ぎ、令和2年度に宮崎県立芸術劇場での巡回公演が決定。他の文化施設や団体とも次年度以降の上演について調整中である。

また、平成29年度のオペラ BOX「Help! Help! グロボリンクスだ！～エイリアン襲来～」は平成31年度も連携した藤原歌劇団による「文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－」で採択され、全国13校で上演された。

海外との共同制作を契機に、ニューヨークのチェルシー音楽祭に東京音楽コンクール弦楽部門入賞者が4名招待され1週間余りにわたり現地に滞在し、海外の若手アーティストと共演する機会も創出。次年度以降も継続すること、また、チェルシー音楽祭の外国人出演者を招聘し交流を深める予定である。

更に、スペインのテアトル・レアルからの劇場視察も受け入れ、今後の連携を期待されている。これらの継続したオリジナル作品の様々な会場における上演により、新進音楽家や実演家の活躍の機会の創出だけでなく、文化芸術が東京に留まらず全国規模で鑑賞できる機会の創出に繋げることが出来たと考える。

ロイヤルバレエ団からの要望による都立特別支援学校におけるバレエのワークショップの実施やボーンマス・オーケストラとの連携によるトレーニングの実施等、海外とのネットワークを活用した先駆的な取組を、特に福祉団体への提供に繋げることが出来たことも効果的であった。

多様な対象に向けたワークショップやトレーニングには、他の文化施設や教育機関、福祉機関からの視察希望も多く、継続して受入れている。新たに他館のインターンも受け入れ、そのインターンを通じた新たな事業展開にも寄与している。ワークショップは都内各地、千葉、高松から招聘され開催。次年度以降も様々な文化施設との連携を要望されている。

これらの実績から、地元の台東区と連携した地域住民を対象とした講座を開催。当館のワークショップ・リーダーや職員が講師となり、地域住民による社会包摂の実現に寄与することが出来た。

このような組織の専門性や特徴を生かし、引き続き独創的な新しい提案をしながら国内外との多様な対象との連携を強化し、それらを牽引する役割を担える事業運営を目指していく。

(5) 持続性

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

館全体の運営については外部評価委員会及び運営委員会を設置し、目標に沿った事業計画の策定と運営、課題の洗い出しと解決を継続して実施している。

また、若手制作者育成のためインターンを受け入れて、企画段階から運営まで、職員の一員として現場体験を実施しており、終了後には当館の臨時職員や職員として、また、新国立劇場を始めとした文化施設やマネジメント会社において活躍している。

平成 31 年度には雇用転換制度の活用により 1 名の正規職員雇用転換が決定し、更に 1 名の職員の増員を確定した。

劇場の運営には専門人材の確保は必須であり、正規職員が増えることで、専門性が高く、責任も負える職務を実行する体制が整うため財団の方針に則り正規職員の増員を毎年図っている。

職員は財団による計画的な研修への参加や専門分野に特化した研修に参加してノウハウを吸収すると共に、財団の語学の習得補助の仕組みの活用や、財団内の他の文化施設との協働、平成 30 年 10 月 3 日に締結した新国立劇場との連携・協力協定を活用した共同制作の実施や双方の職員の交流によって多方面で継続的にスキルアップを図っている。更に、多摩地区や地方の劇場との連携も深化しており、職員のノウハウの共有やスキルアップが期待されている。

全ての職員は目標を持って仕事に携わり、自己評価と業績評価によって研鑽する制度を継続して導入している。

事業を継続して運営していくためには、自らの資金調達も重要であるため、平成 31 年度には新たな協賛金制度の運用に向けて準備段階に入った。また、ロケーション BOX 制度も平成 31 年度中に運用を開始した。

友の会制度は継続しながら、メルマガ会員を大幅に拡大しており、更なるサービス向上を目指すと共に、支援者の拡大も図っている。このような制度を活用し、今まで構築した協賛企業や支援者等との関係を更に深め、安定した運営を目指すと共に、歴史ある当館のファン層を更に拡大していく。

各事業において、都内外の文化施設や教育機関、福祉機関等とのネットワークが拡大していることは前述の通りである。加えて、民間と大学との連携によるアクティブ・シニア向けの音楽ワークショップの効果の検証や、大学との連携による「社会包摂につながるアート活動のためのガイドブック」の刊行、講座の開催も実現した。今後も大学との継続を通じた検証を進めると共に、業種を問わないネットワークを構築することでイノベーションのきっかけとしていく。

このような自らの事業運営を外部からの視点を通して継続して改善することで、事業のレベル向上と全体の機能強化に繋げている。

新型コロナウイルス感染症拡大予防を踏まえた公演の自粛や国際的な展開への課題は残るが、今後も、先駆的な取組を行う当館が牽引役となれるよう、成果を幅広く発信し、全国の文化施設の活動の一助になるべく邁進していく。